にしあわ学舎

事業のポイント

■ にしあわ学舎は平成27年3月、三好市井川町（三好市役所 井川支所）に設置。県西部2市2町（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）を対象に地域を支える人材の育成や課題解決等の事業を行う。

事業代表者・連絡先

田中 俊夫（人と地域共創センター・センター長）
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7276　fax: 088-656-7277
e-mail: kygakusk@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

●まちあるき×サウナで人と地域をつなぐプロジェクト

三好市井川町辻周辺において取り組んできた「魅力的なまちあるき体験開発」事業（2021・2022 年度）の成果としての「井川町辻まちあるきマップ」を携えた地域文化にふれるまちあるきと、近年地域創生において注目されるサウナ浴を組み合わせ、緩急ある観光・交流体験を試行した。本学学生がモニター参加し、1 泊 2 日の滞在プログラムとして開催した。引き続き外部の若者からみた地域の魅力とその活用の契機づくりを図っていく予定である。

●三好市における認知症施策向上に関する協同連携事業

本事業は、三好市を事例として、徳島県の中山間地域に暮らす高齢者や障がい者に焦点を当て、地元関係者と交流し、実情を踏まえつつ、対話を重ねながら、誰もが支え合える共生社会の実現に向けた支援を行うことを目的としている。本年度は 2023 年 6 月に実施された三好市身体障害者会総会において、博物館の資源を活かした障がい者の社会参加に関する記念講演を行うとともに意見交換を行った。同年 12 月には、山城・祖谷地区在住の住民で集まり、持続可能な地域社会のあり方等の意見交換を行った。本会合は今後も継続予定で協議を重ねている。

●にし阿波の魅力発見！オデオン座国際プロジェクト

2019 年から題材としているつるぎ町の実話「十六地蔵物語（1946 年に大阪から疎開し、居留する真光寺の火災により終戦前に亡くなった 16 人の日本と台湾や朝鮮にルーツを持つ子供たちの話）」を朗読劇としてつるぎ町・真光寺にて 2023 年 11 月 23 日に上演した。この編集動画を通して改めて平和を維持することの意味を伝えていきたい。

写真①　8月11日徳島県立博物館にて絵本の読み聞かせ（来場の家族と子供達約80名に）

写真②　朗読劇十六地蔵物語2023　11月23日真光寺にて朗読劇の上演

写真③　2024年1月29日真光寺　十六地蔵を南恩加島小学校とつないでZOOMにて南恩加島小（大阪大正区）へライブ配信

上勝学舎

事業のポイント

■ 四国で最も人口の少ない町上勝町において、持続可能な地域づくりのため徳島大学と上勝町との包括協定に基づき展開する事業。

事業代表者・連絡先
田中 俊夫（人と地域共創センター・センター長）
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7651　fax: 088-656-9880
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

1. 事業の目的

徳島県上勝町は、おばあちゃんの葉っぱビジネスで有名な「いろどり農業」や、循環型地域づくりの先進事例でもある「ゼロ・ウェイスト政策」など、地域活性化の好事例として取り上げられることも多い地域である。しかしながら、少子高齢化に伴う人口減少が進んでおり、地域の担い手不足は大きな課題である。このような状況下において、地域の活力となる若手人材の確保や育成を主目的とし、徳島大学と徳島県上勝町との包括協定に基づいた徳島大学上勝学舎事業を実施している。

2. 事業の取組状況

一般的に大学と地域の連携活動においては、コーディネーション機能の整備や地域ニーズと大学シーズのミスマッチングなどが課題として指摘される。こうした課題の解決に向けて、上勝学舎事業では R4 年度より段階的な地域・大学の連携体制の構築に取り組んでいる。プログラム段階ごとに想定する地域貢献内容を明確にすることで期待値を調整し、持続・発展する体制構築を図る。

（1）導入プログラム

学生の早期段階で地域との接点を作り出すことを目的とした導入プログラムでは、R4 年度に開発した合宿型地域学習プログラム、①ライフデザインワークショップ、②ゲーム教材を活用した地域学習ワークショップを実施した。

住民インタビューの様子

いろどり農家視察の様子

（2）実践プログラム

実践プログラムは、学生が地域に不足するマンパワーとなり、地域のプレイヤーと協働して課題解決に取り組むことを目的とする。今年度は、COC+R で取り組む実践型インターンシップ（地域型）と連携し、ゼロ・ウェイスト推進協議会を受け入れパートナーとした③ゼロ・ウェイストタウン上勝に向けた住民幸福度指標策定に向けた基礎的調査を実施した。地域の小学生・中学生を対象に「かみかつしあわせカルタ」と題したカルタづくりワークショップを実施し、幸福度指標策定に向けた意見収集、分析を行った。

上勝中学校WSの様子

（3）発展プログラム

発展プログラムは、大学が持つ専門的知識を活かして、地域の課題解決に取り組むことを目的とする。今年度は、自転車交通の活用推進について研究をされている矢部拓也教授（都市社会学）と連携し、④E-Bikeを活用したサイクルツーリズム振興を実施した。町内のサイクルガイド人材の育成として、自転車店ナカニシサイクルの中西裕幸代表を講師としてお招きし、町内サイクルツアー事業関係者に対して現行の E-Bike ツアーのモニタリング、ガイドの改善点についての研修会を実施した。

E-Bikeガイド研修の様子

3. 今後の展開

来年度もこれまでの取組みを継続しながら、新たな発展プログラムの開発に取り組む。また、地域との密なコミュニケーションのもと、大学と地域、双方にとって価値ある域学連携プロジェクトが実施可能な体制構築を継続して行う。

上勝学舎地域連携体制の全体像

プログラム	期待される地域への貢献内容	今年度実施プロジェクト概要
発展プログラム 想定対象： 教員・大学院生	教員や研究室との連携のもと大学が持つ専門性を活かし、地域に貢献する	**④E-bikeを活用したサイクルツーリズム振興** 実施時期：8月～12月 活動概要：モデルコース調査、サイクルガイド人材育成講座の実施
実践プログラム 想定対象： 学部上級年次生	地域に不足するマンパワーを補うため、地域のプレイヤーとともに地域課題解決に取り組む	**③ゼロ・ウェイストタウン上勝に向けた住民幸福度指標策定に向けた基礎的調査** 実施時期：8月～3月 活動概要：FW調査、上勝小学校・中学校でのワークショップの実施、報告会の実施、報告書作成
導入プログラム 想定対象： 学部1～2年生	20歳代のフレッシュな感性や、外からの視点を活かして、既存の取組へのフィードバックを行う	**①ライフデザインWS** 実施時期：11月11、12日 活動概要：町内事業の視察、住民インタビュー **②ゲーム教材を活用した地域学習WS** 実施時期：12月16、17日 活動概要：町内事業の視察、町内のこどもたちとカードゲームを通じた交流

徳島大学･美波町地域づくりセンター

事業のポイント

■ 人口減少、津波防災などの課題を抱える美波町において、大学、地域行政、住民との連携を推進し、美波町における地域づくりをすすめることで、大学における地域貢献拠点としてのモデル発信を目指す。

事業代表者・連絡先
山中英生（人と地域共創センター・副センター長）
〒779-2103 徳島県海部郡美波町西の地字大谷48-1
（美波町地域共創センター）
tel / fax: 0884-70-1274
e-mail: tokushima-minami@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

1. 事業の目的

当センターは、2013 年 7 月に、徳島大学と美波町との「持続可能なまちづくり」をテーマとした連携協定の活動拠点として、美波町役場由岐支所 3 階（2021 年 11 月 1 日より美波町地域共創センターに移転）に開設した。徳島大学と美波町が連携し、知的・人的資源の活用と交流を図り、相互に協力して地域の発展と人材の育成に寄与する。

2. 事業の取組状況

①研究員が駐在し研究活動の実施

当センター事務室に研究員が駐在し、美波町由岐湾内地区における事前復興まちづくり活動の参与型分析を行っている。令和 5 年度は、第 42 回日本自然災害学会学術講演会等で発表を行い、防災教育学研究等に論文投稿した。

②持続可能なまちづくりに関するシンポジウムの開催

持続可能なまちづくりの啓発や交流を兼ねたミニシンポジウムを開催している。令和 5 年度は、「徳島大学美波町サテライトオフィス健康寿命からだカレッジ mini」（2 月 1 日、8 日、15 日、22 日）、「令和 5 年度徳島大学地域防災シンポジウム」（2 月 24 日）、「令和 5 年度第 5 回在住外国人を対象とする防災ワークショップ in 美波」（3 月 10 日）を主催し、「令和 5 年度美波町自主防災会連合会防災講演会」（2 月 23 日）に協力した。

③『美波共創塾』の運営

令和元年度より、美波町と徳島大学が協働で、“ 美波町の将来像を実現するために、多様な主体と新しい価値を「共」に「創」り上げていくオープンな場 ” として、『美波共創塾』の運営を行っている。令和 4 年度は、（1）地域自治を担うリーダー育成において、地域住民を対象に『美波共創塾』の新規募集を行い、27 名の塾生と地域づくり勉強会・情報共有会または交流会を計 7 回開催した。また、塾生が 3 つの活動グループ『環境×アートものづくり』『美波町の魅力発信』『社会的弱者支援』に分かれて、年間通じてグループ毎の実践も行い、年度末に活動成果報告チラシを作成、町内に全戸配布した。（2）地域住民と協働する職員育成において、『美波共創塾通信』（No.12 ～ 16）を発行した。（3）地域の宝である次世代育成において、美波町内の幼・少・中学生と保護者を対象に、UR 都市機構・美波町に協力して「子ども防災食堂・子どもお菓子防災バッグ作り」「高台整備現場見学ツアー・デイキャンプでサバイバル体験」「美波夜市」を開催した。また、由岐小学校全校生徒を対象に、防災デイキャンプ等の授業を行った。（4）町外の交流・関係人口の創出において、『由岐湾内地区防災ツーリズム MAP』を活用して視察研修の受入を行った。

④美波町の自主防災活動の支援

由岐湾内 3 地区自主防災会連合会の事務局支援を行っている。避難まつり 2023（4 月 29 日）、西の地防災子ども会夏休み防災教室（8 月 3 日）、由岐小学校 6 年生防災キャンプ（10 月 28 日～ 29 日）、由岐湾内地区 75 歳以上世帯の個別避難訓練（11 月 4 日）、西の地防災きずな会防災サンタ（12 月 24 日）、西の地防災きずな会地区防災計画策定ワークショップ等の支援を行った。

⑤美波町地域づくりの支援

令和 2 年度に発足した美波町由岐湾内地区の任意団体「美波の SORA」に参画し、高齢者の生活安心調査、生活支援サービスの実施、SORA のつどいの開催、SORA カフェ・SORA キッズデイの開催、ふるさと教育、令和 5 年度徳島県新規採用職員「地域交流体験研修」の受入等を行った。

⑥徳島県南の防災まちづくりの支援

令和 5 年度牟岐町防災リーダー育成事業や令和 5 年度牟岐町防災サークル防災キャンプ（1 月 5 日～ 6 日）、令和 5 年度牟岐町地震津波避難訓練（1 月 27 日）等の支援を行った。

⑦その他（講師、委員等）

徳島県内外での防災まちづくりに関する講演会等の講師を務め、また徳島県災害ケースマネジメント推進協議会をはじめ委員会等に出席した。

那賀町地域再生塾

事業のポイント

■ 那賀町で活動している「地域再生塾」に更に学習の機会を提供し、より効果的な市民活動となり積極的な展開を促すほか、那賀町と連携した地域活性化に取り組む。

事業代表者・連絡先
田中 俊夫（人と地域共創センター・センター長）
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7651　fax: 088-656-9880
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

1. 事業の目的

那賀町の地域再生塾は、町おこし団体「那賀人-Nacord-」との協働を通じて、那賀町における地域再生人材育成、地域活性化に取り組んでいる。

2. 事業の取組状況

●リノベーションワークショップ（3月）

地域おこし協力隊による古建屋を再生したカフェのオープン準備に協力するかたちで、本学社会基盤デザインコースの建築学生らによるリノベーションワークショップを実施した。町の方々の指導のもと、一度は廃棄寸前となった地元杉材を生かした壁張りや建屋外構部の石積みの修復作業などに2日がかりで取り組んだ。

●空想からの生き方デザインプロジェクト（4~7月）

2019年度神山学舎事業として始動した「空想からの生き方デザイン」プロジェクトについて、本年度は、那賀町へフィールドを移し展開を試みた。

参加学生ら（学部1年授業「STEM演習」履修生）は、まず那賀町へ足を運び、地域再生塾メンバーらとのフランクな会話や観光体験を経て、自分たちで取り組みたいテーマを「サウナ浴やアウトドアを生かした那賀町の観光的魅力にふれる体験プログラムづくり」に設定した。その後、企画・検討を重ね、本学学生を対象とした日帰りモニターツアー「ﾅｶﾅｶｲｲｻｳﾅ、ｲｶｶﾞ？~ツーリング× SUP ×サウナで、最高にととのう~」を7月に実現した。参加したモニターへの事前アンケートでは「1日がかりで長いと感じる」等の否定的な意見が多かったものの、事後アンケートでは「1日通して楽しめた」「那賀町への関心が高まった」等の肯定的な感想が寄せられた。

●ポータブルサウナ活用可能性探求（5～7月）

昨年度に引き続き、圓明山萬福寺にて、テントサウナ浴×坐禅を組み合わせた「お寺サウナ」を開催した。外国人観光客等を対象とした展開も見据えて、体験内容・構成について検討しながら試行を重ねている。

●なからく～「那賀」で「楽」しくはたらく～（通年）

先述の「空想からの生き方デザインプロジェクト」の成果をふまえて、那賀町の仕事を体験しながら那賀町の魅力にふれることのできる学生向けの滞在型プログラム「なからく~「那賀」で「楽」しくはたらく~」を企画・実施した（8月・12月~1月）。お盆や年末年始など、大学生の休暇期間と町の宿泊施設や農作業の繁忙期が重なる日程で開催することで、町内の働き手不足への対処につなげることもねらいとしている。

参加学生ならびに受入先の仕事場スタッフからは総じて好評でリピート参加もみられたことから、引き続き受け入れ体制を整備しつつ展開を図っていく予定である。

●廃校利活用プロジェクト（通年）

廃校となった旧桜谷小学校（上那賀地区）の校舎を活かし、高齢化の進む周辺地域の活性化を図るものである。

昨年度に本学学生らで設計・完成した教室1室分のミニ四駆サーキットは、同地区の産業文化祭等へ出展され、親子連れで楽しめる大規模なサーキットとして地域内外から訪問されている。

●町議会への会議記録技法の紹介（10月）

那賀町議会議員らに対して人と地域共創センター講師より、地域再生塾の定例会で取り入れている会議記録技法（オンラインホワイトボードを用いた議論の視聴覚的アシスト等）を紹介するとともに、町議会でのデモンストレーションを行なった。

●ハロウィンイベント（10月）

2015年よりスタートした本イベントは、仮装した子どもたちが同町鷲敷地区の家々を巡り、本場アメリカンスタイルのハロウィンを楽しめる恒例行事として町外からも多くの参加者を集めてきた。

本年度は初の試みとして、10月29日の「ナカまつり」内の体験コーナーの1つとして実施した。町内外から50名ほどの参加があり、好反響であった。

●自転車を用いた観光的魅力の再発見（11~12月）

2021年度より継続して取り組んでいる本プロジェクトでは、11月の「もみじまつり」、12月の「上那賀産業文化祭」において、タンデム（二人乗り）自転車やeバイク（電動アシスト付き自転車）試乗コーナーを出展した。

試乗者アンケートで得られた結果をもとに、他のプロジェクトやイベントとかけ合わせての自転車活用の可能性を探っていく。

神山学舎

事業のポイント

■ 神山学舎は平成27年5月、神山町(神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス)に設置。若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指す。

事業代表者・連絡先
田中 俊夫（人と地域共創センター・センター長）
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7651　fax: 088-656-9880
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

●神山町における過疎集落対策支援プロジェクト

神山町における集落支援として、昨年度は上分地域の地域資源の掘り起こし及び冊子化を行った。本年度はこうした地域への支援を町域全体として俯瞰的に見るために、地域の状況の視覚化に向けた活動を行った。

具体的には、集落で聞き取り調査を行っている集落支援員が配置されている上分地域、鬼籠野地域、阿川地域を対象に、集落状況の整理及び対策づくりのフレームワークの作成並びに集落ごとの状況を神山町全域の地図にプロットすることで、神山町における地域支援戦略を検討するための視覚化を行った。集落の状況は、統計的な数字では測れない部分も多いため、集落支援員を通じた情報収集を広域的に整理する方法の開発が求められている中で、神山町での視覚化は一つのモデルとなり得るものと言える。これまで集落単位では「集落点検」を始めとした、地域の状況把握のツールはあったものの、広域的に状況把握をする取り組みもほとんど存在しなかったため、神山町での実践は学術的にも価値がある。

●水質浄化池をまちへひらくプロジェクト

「大埜地の集合住宅」に設けられた水質浄化池と周囲の緑地空間を介して、川と暮らしの好ましいつながりづくりをねらいとする活動である。神山つなぐ公社と本学の都市デザイン研究室、環境衛生工学研究室が協力し、月例の活動・調査に取り組んでいる。

現地で取り組まれている特徴的な手法「選択除草」の定量的な効果検証や、作業者の経験値に応じたモチベーション維持の工夫を試行している。また、池に繁茂し水質浄化機能を阻害する水草について、消長サイクルの把握等を進めている。なお、今年度の活動経過報告会は3月に現地にて開催予定である。

選択除草の様子

地域連携・課題解決の取組

事業のポイント

■ 地域連携による課題解決、価値創造、地域再生人材育成、実践モデル教育・研究、拠点形成、地域活性化イノベーション・プラットフォームの構築のための実践的な取組を行う。

事業代表者・連絡先
田中 俊夫（人と地域共創センター・センター長）
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7651　fax: 088-656-9880
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

1. 事業の目的

地域活性化を目的としたイノベーション・プラットフォーム「フューチャーセンター A.BA」を拠点とした地域の課題解決や価値創造のための実践的な取組等を実践している。

2. 事業の取組状況

●Tokudai Hospital Art Labo

5－6月に徳島赤十字ひのみね医療療育センターの通所利用者と共に、徳島県医療的ケア児等支援センターにハートをモチーフにしたマスキングテープ壁画を制作した。また6－7月には、小松島市の知的障がい者のグループ「ひまわり会」でワークショップを開催し、ハートの中にひまわりをあしらったマスキングテープ作品を制作して、8月に小松島市役所と同保健センターにて展示を行った。11月には徳島県障がい者芸術・文化活動支援センターとの共催で、ふらっとKOKUFUにて一般向けワークショップ「マスキングテープで表現してみよう」（令和5年度障がい者アート活動支援のためのワークショップ）を行った。さらに同所では通所利用者と一緒にクリスマス装飾の制作も行った。

徳島県医療的ケア児等支援センター（2023年6月）

●徳島ロボットプログラミングクラブ

（開催日）オンラインロボットコース：夏季8/11、8/20、8/27、冬季12/24、1/7、1/21

ロボットやプログラムの製作を通して、メカトロニクス・ICT技術の興味・関心を深め、未来を担う人材育成を目的とし、地域の小学3年生～6年生を対象に、大学生を中心としたTAとともにロボット教室を計6回開催した。今年度の夏季はハイブリッドで開催したが、対面が11名に対し、オンラインは1名のみであった。また、冬季は対面のみで実施し、17名が参加した。講座には保護者とともに参加するよう依頼したところ、親子で楽しくロボットやプログラムを製作する様子がうかがえた。

ロボットプログラミングクラブ

●生物観察教室

令和5年8月に、実験を通して生命の神秘を実感し生き物や理科に興味を持つ子供たちを増やすことを目的とし、生き物に興味のある県内の小中学生を対象に開催した。カエル（アフリカツメガエル）の人工授精や、少し発生の進んだ初期胚を2種類の顕微鏡で観察しスケッチを行ったほか、カエルやイモリに自由に触れるふれあい体験も行った。参加者23名のアンケート結果からは、子供たちがこの事業を大変楽しんだ様子が伺われた。

生物観察教室

●FILM CYCLE PROJECT

フィルムサイクルプロジェクトでは、個人が記録した写真や8ミリフィルムなどのパーソナルメディアの収集と個人の記憶ストーリの収集、GIS技術によるマッピングを行なう活動で、本年作業分（セミプロとして活躍した方々のコレクション）を加算して通算1200本のフィルムをデジタル化し、その返却・上映会を開催している。メタバース空間での上映会などの先進的な取り組みは、美術教育の教師ハンドブックにも掲載されている。また、本取り組みは、米国で開催された包括的なデジタル化と探索可能性のためのプログラム：CDDP: Comprehensive Digitization and Discoverability Program」のコンペティションで大賞を受賞した。大賞の受賞は、昨年のイェール大学に続くもので、国際的な舞台でも本プロジェクトの価値が認められている。

図1　CDDP AWARD:（https://youtu.be/r408F14mf7E）

●地域の魅力創出につながるまち歩き支援アプリとデザインワークショップの開発

本事業の目的は、「街を見る」視点を変え、地域の魅力を引き出すための「魅力の種」を見つけ出し、収集するツールとワークショッププログラムを確立することである。今年も引き続き、京都精華大学と地域科学研究所との協力を得ながら開発を進めた。

「魅力の種」を見つけるために、参加者には「視点変化サイコロ」によってランダムに「お題」が与えられ、それに基づいた視点で街を観察することとなる。普段の生活では気づかない地元の特徴や現象に注目できるようになり、新たな街の見方が促進される。こうして収集された「魅力の種」に対して、「共感カード」、「展開カード」、「テーマシート」などのワークショップツールを使用し、地域や参加者固有の「新しい観光スポットのアイデア」を練り上げていく。今年度の成果として、情報機器を使用せずにアナログ的な手法で地域情報を集め、目的地に到達する「デジタルデトックス」や、街中で「ペア」を見つける「ニコイチ」をテーマにした独創的なまち歩きプランが企画された。将来的には、このワークフローを整理し、一貫して実施できるワークショッププログラムとして確立していきたい。

●海部川流域文化継承プロジェクト

本事業は、海部川の流域環境の保全改善に取り組む合同会社「みつぐるま」からの協力依頼を受け、森田椋也講師（人と地域共創センター）のコーディネートのもと、本学理工学部所属の建築学を学ぶ学生たちからなる「建築サークルAUT」（指導担当：河村勝 技術専門職員）が主体となり、建築を通じた地域活性化を目的とするものである。本年度は、轟神社境内の老朽化した食事室のリノベーションワークショップを実施した。新装された部屋は、同神社の秋祭りにて地域の方々にお披露目された。

●フューチャーセッション（鳴門市スサづくり）

鳴門市で、稲ワラを用いた川と共存する伝統的な自然的製法による建築土壁材料のスサづくりが注目されている。セッションは、①鳴門市に残る伝統的な建築土壁材料のスサづくりを知ってもらう。②鳴門市のスサ・土壁、コウノトリ、レンコン、自転車などの地域・活動資源を共有し、関係者が出会い、地域の未来の可能性を考える、を目的として11月21日に8団体等と連携して開催した。セッションでは、「川と共生した鳴門市でのスサづくり」「鳴門市のレンコン産業と地域」「日本建築における土壁とスサ」「コウノトリが生息する地域」「鳴門市におけるサイクルツーリズム」「徳島における地域支援型農業CSAの取組み」等の情報を学び、金魚鉢ワークショップで意見交換を行った。今後、今回セッションで得た参加者等のつながりによる、鳴門市スサ資源を核とした地域の未来の活動創生が期待される。

開催情報

●徳島県の高齢化をめぐる諸問題に関する一般市民への意識啓発事業

本事業は、全世代の県民が、高齢化にまつわる諸問題に対して主体的に行動できるよう、セミナーやイベント開催を通じて意識啓発を促すことを目的に実施している。本年度は、話題提供とグループワークから構成される大人向けの事業については、家族介護者に焦点を当てたセミナーを小松島市で実施した。絵本の読み聞かせと寸劇から構成される子ども向けの事業については、徳島市の児童館及び学童、石井町の学童で実施した。

●サイクルツーリズム講座

全国でサイクリングを楽しむ観光サイクルツーリズムが勢いづく中で、サイクリングを活用した地域活性化等に関心を持つ市民と協働して、徳島ならではのサイクルツーリズムのモデル、組織、人材づくりを目指す徳島大学サイクルツーリズム講座を、9月・3月で全2回開講。